

M家のアルバム（過去・現在・未来）

Photo album of Ms' family (past, present, future)

永田映子¹

Eiko Nagata¹

¹介護老人保健施設マカベシルバートピア

¹Geriatric Health Services Facility MAKABE-SILVER-TOPIA

A woman, alias M, in her 80s has been participating in a photo-taking activity using personal digital cameras at an elderly facility for four years. How her life was affected by owning her own digital camera is considered by looking at her photographs.

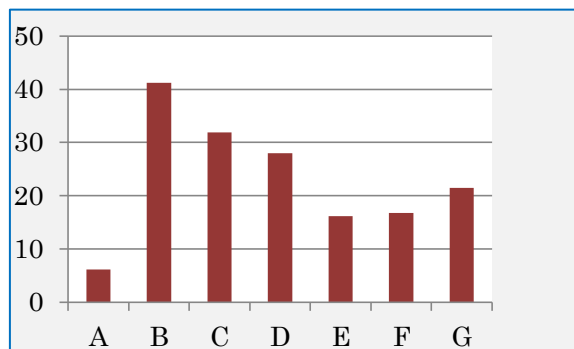
1. はじめに

デジタルコンパクトカメラは、2003年ごろには300万画素になり、3万円以下で買えるようになった。（以下デジタルカメラと略す。）2007年ごろから、更に価格が下がって700万画素になり、手ぶれ補正、顔認識の機能がついてカメラの性能が向上したため、素人でもきれいな写真がとれるようになってきた。そのことを受けて高齢者の施設でも、徐々にではあるが写真活動をするところが増えてきた。

A県B市のC施設に通う80代前半の女性Mさんは、リウマチの持病があり、転倒して大腿骨骨折をした経験がある。通所施設におけるリハビリを兼ねた写真活動に参加したX年から4年が経過し、写真の腕前はなかなかのものである。

Mさんは2台のデジタルカメラを所持し、撮影枚数は半月で20枚ほどである。他の参加者と比較した結果、平均的な数であった。

表1：Mさんが撮影した写真の平均枚数（G）



Mさんは自身や夫の通院で休むこともあるが、月平均1～2回ワークショップに参加している。X+1年には、共想法にも参加するようになり、自分が撮影した写真を使った会話をしている。X+2年ごろには、仲間に遠慮なく意見を言えるようになり、発言の数も段々と増えている。

本論文は、Mさんの思いを、文書と聞き取りによって、自分専用のデジタルカメラを持つ生活について伺うことを目的とする。

本文を書くにあたり、施設とMさん本人から了解を得た。Mさんからは、どの写真でも使ってよいという返事を頂き、アンケートにも快く答えていただいた。

2. 提案方法

Mさんは現在2台のカメラを所有しており、SDカードに入っていた写真データは、毎回本人の希望する写真を印刷したのち、筆者が管理している。SDカードはそのつど画像のないものと取り換え、後日の焼き増しに備えて、パソコンに保存している。

MさんがA施設に通い始めて、デジタルカメラを使った活動をする前と現在とでは、意識や生活がどう変化したかを本人の言葉から探る。そのために、それぞれ1時間程度のアンケートによる回答と、聞き取りによる回答をもらった。

Mさんが4年間に撮影した写真、筆者にスキャンを依頼した写真は、大きく分けて以下の3つになる。最初はデジカメに慣れることから始まり、次第に過去のアルバムに意識が向い、腕があがるにつれ

連絡先：永田映子

茨城県桜川市真壁町東山田 1945

介護老人保健施設マカベシルバートピア

0296-54-2800

てブログに掲載されることもあった。

表2：Mさんの写真の分類表

	内容
過去	図1 スキャン、拡大（L版から2L版へ）
現在	図2 デジタルカメラでもの・ことを撮影する
未来	図3 ブログへの掲載（写真・コメント）



図1：過去の写真 図2：現在の写真 図3：ブログの写真

2・1 アンケートによる質疑応答

予め電話で研究への協力を依頼し、了承していただいた。アンケートは通所の日に、A3用紙の9項目に1時間程度で記入してもらった。比較対照者として、同じくブログに掲載され70代男性Hさんの回答を併記する。ただし⑦は該当しないので省いた。

①自分専用のデジタルカメラを持つ前は、家族の中で誰がカメラを使い、どのような時に、どんな光景を撮影していましたか。

【回答】家族や友人達がお互いに撮り合っていました。お祝いごとのあった時、他

【回答・男性】親が健在な時は、カメラに興味はありませんでした。

②自分のカメラがあると今までとは何が違いますか。

【回答】小さな事にも気がつくようになりました。

【回答・男性】まず人でも風景でも撮りたくなる。

③デジタルカメラがあると良いと思う時は、どのような時ですか。

【回答】自分流で自由に撮ることが出来る時です。

【回答・男性】すばらしい景色とか、兄弟、親戚が集まった時の記念に、すぐに現像して渡せる。

④ブログに自分の写真や記事が掲載された時は、どんな気持ちでしたか。

【回答】評価されるとは思っておりませんでしたので、大変うれしかったです。

【回答・男性】上手でもない写真を掲載されると、やはりうれしい気持ちになります。

⑤ブログに掲載されたことを誰かに教えましたか。

【回答】家族や友人に伝えました。

【回答・男性】妻に。

⑥記事を書くときに苦労したことはありますか。

【回答】文字にして伝えることの大変なことを感じました。

【回答・男性】難しい文章でもなく、自分なりの考

えで書くので、別に苦労はありませんが、短い文章は特に考えます。

⑦昔のアルバム写真の中で、拡大した写真は、どのように使いましたか。

【回答】子ども達の成長を写真に撮り、それぞれにアルバムに作って残してあります。

【回答・男性】省略

⑧この4年の間に、自分のどこが変わったと思いますか？

【回答】自分の自由な心のありかた

【回答・男性】廻りの風景とか人物を見ると、美しいとか珍しいとか思い、ついカメラに撮りたくなる等、外に向かって興味が湧いてきた。

⑨自分にとって、今一番大切なことは何ですか。

【回答】写真をもっと面白く楽しみたいと思っています。

【回答・男性】健康と身体に損傷を与える様な怪我をしないよう、常に危険予知の考えをもって行動すること！（怪我をすることが多い男性）

2・2 聞き取りによる質疑応答

アンケートを拝見して、多少不足しているところがあったので、1時間ほどMさんと面談して聞き取りをし、回答してもらった。（補足説明のあった項目のみ）

②散歩にも持っていき、自分の世界が広がりました。2台ありますが、手になじむカメラがあります。

③不思議な雲を見た瞬間、カメラがあればと思ったことがありました。

④こういうことをやらせてもらえて、別の世界へ足を踏み入れたという気がします。将来残るし、何か1つでも残せてうれしいです。何段か飛び上がるような感覚がしました。

⑤短歌をしている友人にも教えました。写真は偶然に撮ったものですが、自分には思いつかないような感想が職員からもあり、見る人が分かってくれて嬉しいです。

⑥作文なんてしたことがなく、ひと月もかかりました。マイクを持ってしゃべる経験も初めて。（共想法）リュウマチは完治しませんが、性格上のんびりできないので疲れてしまいます。

⑦アルバムはもう子どもたちに渡しました。いつの日か、こんな風に育ててくれたのかなと思ってくれたらいいです。夫婦で夜も昼もなく働き通しでした。

⑧以前は世の中とのつながりが薄く、世間知らずでした。思ってたのとちょっと違う世界が開けました。色々な家庭があるのを知って、夫は「俺たちは幸せだよな」と言ってくれています。

⑨夫婦はお互いを無意識のうちにあてにしています。ただ家にいるだけでは分からなかった自分の幸せを感じています。病気がこれ以上悪くならないようにしていきたいと思っています。

2・3 その他の発言

その他、口頭で述べられた M さんの言葉を補足する。

(i) 春になったら、先祖の石碑がある寺に行き、梅の花を撮影するのが楽しみです。

(ii) 夫が TBS 番組をみてから、自分もカメラを始めようかと言い出しました。2 台あるので 1 つあげようと思います。手になじむのとなじまない機械があります。

(iii) できるなら、少しでもすがって、写真を心の拠り所にしたいです。目的があるのは幸せなこと。

(iv) 私が、とか私の、という気持ちが、今の自分の支えになっています。誇りであり、自尊心も高まります。

3. むすび

アンケートと聞き取りの結果、筆者の予想を超え豊かな感想が聞かれた。M さんにとって、デジタルカメラを使って写真を撮ることは、生活に張り合いを持たせていることが伺えた。写真によって、自分なりの自由な表現ができ、世界が広がり自尊心も高められること、自分に誇りが持てることが語られた。ブログへの掲載では、未知なる世界へ足を踏み入れたような感覚をもたらし、今までとは違う広い世界に触れることができたようである。

持病のリウマチは完治しないため、曜日毎に違う薬を飲んでいる。性格上のんびりできないので、家では動きすぎると言う。

特に⑨の回答にあるように、もっと写真を面白く楽しみたいという気持ちが芽生えたことは、心理神経学的にみても、免疫機能を高めてくれるのではないだろうか。写真の腕が上がり、自信がついたことがその要因であろう。最近では光を捉えることも意識している。(図 4、図 5) 庭の福寿草は、早い午前中の光の中で撮影するのが一番良いことが、最近分かったという。



図 4：朝日の中の福寿草



図 5：庭の山茶花

今後の課題として、M さんの写真とその時の発言を参考に、撮影内容の変化などを探ってみたい。

4. 謝辞

本研究は、M さんと H さんのご協力によってなされた。筆者の急な申し出にもかかわらず、快くアンケートにご回答いただいた。

また、ホームページのブログ記事の掲載についてご理解いただいた C 施設とほのぼのの研究所に心より感謝する。

参考文献

【大武 1 2】大武美保子：介護に役立つ共想法、中央法規出版 (2012)

【丹野 1 3】丹野清志：写真教室では教えない新スナップ写真の方法、玄光社 (2013)